

連載 オブジェクト指向と哲学

第74回 時間と空間(8) - アリストテレスの場所論

河合 昭男

<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~Kawai>

誰でも知っている「右」という基本的な概念、言葉で説明せよと問われると意外とできない。辞書は左右の説明を東西南北に置き換え、その説明は左右に置き換えている。我々は生まれた時から体で覚えた経験を知識として蓄積する能力が与えられている。我々はそれら言葉で説明できない知識概念をベースにして、個々それぞれ独自の経験と学習により知識概念をつなぎ合わせて膨らませてゆく。

●間 (あいだ)

「間」も言葉で説明困難な基本概念のひとつです。例えばサンドイッチを辞書で引くと『薄く切ったパンの間にハム・卵・野菜などを挟んだ食物。』とあります。この説明のキーとなる「間」を言葉で説明せよと問われたらどうでしょうか？

--

広辞苑

- ① 二つのものに挟まれた部分。物と物とに挟まれた空間・部分。
- ② 時間のへだたり。絶え間 (ま)。
- ③ ここからあそこまで一続きの空間・時間。

明鏡国語辞典

- ① 空間的に、二つのものに挟まれて空いている部分。
- ② 時間的に、(物事がとだえた) ある一定範囲。

--

「間」は時間と空間に関わる概念ですが、今は空間に注目しそれぞれ①のみ見てみます。二つの辞書の説明の共通点は、前提として二つのものが存在することです。次にそれらに挟まれた空間または部分という説明をしています。両者に使われている「挟む」がキーワードです。サンドイッチの説明にも用いられていますが、「間」と「挟む」は緊密な関係があります。辞書の説明は冗長になるので省略しますが「挟む」の説明に「間」または「すきま」が使用されています。

これも左右のような体で覚えている基本知識概念です。ロボットには、このような言葉で説明できない基本知識概念をどのようにインプットするのでしょうか？

●場所

「場所」も言葉で説明困難な基本概念で、辞書の説明は「場所」を「ところ」と言い換え、「ところ」の説明に「場所」を使っています。

プラトンはティマイオスでコーラ（場）という概念を生み出した。コーラはトポスと似ています。コーラ（χώρα）というギリシャ語の意味は「国、地方」で、トポス（τόπος）は「場所」です。
[4]

プラトンはものが生成される場をコーラと呼んだが、アリストテレスの場所論はやや視点が異なります。

●アリストテレスの場所

アリストテレスは空間論というより空間の位置＝場所を論じた。[1] まずものがあり、次に場所がある。4 元素でできているものがあることは確かであるが、場所と呼ぶべきものは本当にあるのかないのか？

アリストテレスは同じ所でもものを入れ替えできるところから場所が存在しなければならないと考える。以下、自然学第4巻[2]を紐解いてみます。

--

場所が存在するという事は、相互置換[入れ替り]の事実からして明らかであると思われる。

--

水の入った容器から水を取り出すと、そこには空気が入る。

--

すなわち、たとえばいま水があるところ、そこから、あたかも容器からのように、その水が出ると、そこにこんどは空気はいり、そして或る他のときには、またこの同じ場所を或る他のそうした物体が占める。だから、これは、そこにはいつてきたり入れ替ったりするものどものどちらとも異なるなにもものかであると思われる。

--

従って、そこに水でも空気でもない「場所」と呼ぶべきものが存在しなければならない。

--

というのは、いま空気がこれのうちにはいったところのこれのうちに、さきに水がはいっていたのであるとすれば、これなるこの場所または空間[すきま]は、これの中にはいったもの[空気]と、入れ替わりにこれから出ていったもの[水]との、どちらとも異なるなにもものかであったことは、明白だから。[2] (209b1)

--

この「場所または空間[すきま]」は「トポス（τόπος）とコーラ（χώρα）」[3]であり、ここでは

この二つの言葉を特に区別されていない。[3]では「場所と場」と訳されている。

『場所は質料でもなく、形相でもなく、また物体をとり除いたとき残ると思われた空虚な間隔でもない』[3]と消去法で議論を進め、物体が包まれるもの、より正確には『場所とは包むものの内側の境界であり面である』[3]と定義した。

●駐車場

この場所の定義はまだ中間的なものです。

駐車場に空きがあるとは、車を置く「場所」があるということです。そこに駐車すると、その車を「包むものの内側の境界であり面」が場所になる。何かシートカバーのイメージです。車により形状が異なります。新しく入ってきた車の形状に合わせて場所のシートカバーも形状を変化させ、出て行ったらシートカバーはたたむのでしょうか？無理にこのような万能シートカバーを持ち出さなくても良さそうなものです。この段階での場所の定義はまだ完全ではなさそうです。

●川と舟

自然学第 4 巻[1]に川と舟の例えがあります。

--

ところで、容器とはもち運び可能な場所であり、場所とは動かすことのできない容器である。

--

容器を移動させても、容器の内面に貼り付いている場所は容器に対しては動いていない。

--

だからちょうど川の中で舟が動くばあいのように、動いているもの（川）の中で、その中にあるもの（舟）が動いて移転するときには、それを直接包み囲むもの（川）は、場所としてよりも、むしろ容器として扱われることになる。他方<場所>は動かさえないものを意味する。そこでむしろ、川の全体の方が<場所>の意味に近いことになる。なぜなら、川の全体は動かないから。

[1] (212a15 あたり)

--

(川)、(舟)の説明は[2]を参考に付け加えています。

場所を次のように定義します。

--

かくて、「ある事物を包み囲んでいるものの、その事物に直接する（最も内側の）動かされえない境界面」というのが<場所>の規定であることになる。[1] (212a20)

--

動かされえないという条件が付け加えられます。

アリストテレスが探求している場所の概念は、我々が使っている「車が駐車できる場所」とか「電車で座れる場所」とは違うようです。アリストテレスは先にものがあり、次にそれを包むものとして場所というものが必要だと考えています。我々は先に場所があり、そこに車を止めたり、座ったりします。何かで包む必要はありません。

以下、次回...

参考書籍

- [1]【編集】田村松平、世界の名著 9 ギリシアの科学、1980、中央公論社
- [2]【訳】出隆／岩崎允胤、アリストテレス全集 3 自然学、1968、岩波書店
- [3]【訳】平井啓之／村治能就／広川洋一、ベルグソン全集 1 時間と自由／アリストテレスの場所論、1993、白水社
- [4]田中美知太郎、松平千秋、ギリシャ語入門、2012、岩波書店